OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	利用学生の声　サイバーメディアフォーラム no.7 CALLシステム
Author(s)	
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2006, 7, p. 54-54
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70235
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

利用学生の声

大学院の授業の１つとしてサイバーメディアセンターでの授業を受講させていただきました。受講中、授業外での自主学習教材として「Introduction to College Life」というCALL教材を使って学習しました。

この教材は、主に聴解力養成を目的としたCALLのCD-ROM教材で、自分のペースにあわせて学習でき着実に力をつけていくことができると思います。授業以外でも、自主学習のときにCALL教室を利用していますが、教室のパソコンの中には、私が使用している教材の他にTOEIC、TOEFL、その他のCALL教材が充実しています。

学習の自己管理をきちんとしなければならない反面、自分のペースで好きなときに学習できる。これがコンピューターでの語学学習の利点だと思います。最初はきつくても、週 2〜3 回の継続学習で必ず学習効果はあるはずです。この学習を通して、語学学習は継続的学習と忍耐力が必要だが努力すれば必ず結果は返ってくる、ということを改めて実感しました。外国語学習をするにあたって、CALL教室での学習教材が充実した環境で学習できることは、とても恵まれていることだと思います。このような環境で教材を積極的に利用し学習することで（もちろん本人のやる気も大事ですが）、着実に語学力を付けていくことができると思います。

上村　真希（言語文化研究科　M1）

****

大学生や大学院生のように、ある程度の英語力を備えた学生には、パソコンを用いたた語学教育というのは、現時点では画期的で新鮮味に溢れたものだと思う。というのも、今までテキストやプリントなどの教材で基礎を積み上げて来ており、それらをもとにさらにもう一歩パソコンを用いての語学学習となれば、ウェブサイト等の新しい情報源を知ることができ、より幅広い外国語の知識を身につけることができるからである。語学学習の際に求められるパソコンの技術もさほど高度ではなく、レポート作成やインターネット、メールを扱うくらいの知識で充分事足りるので、多くの学生は対処できると思う。ウェブサイト上で最も最近の外国語の新聞記事を読める即時性や、多くの論文を一度に捜すことができ簡単に教材を提供できることもCALLシステムを用いた語学教育の利点であると思う。ただ、そういった教材提供のみでは、学生は補足の書き込みができない不安感、手元に資料が残らない物足りなさを感じることもあるかもしれないので、実際にプリントを配布することも必要だと感じた。

私は英文作成以外の授業ではCALLシステムを使った語学の授業を取っていないが、他にも活用する点が色々あるはずなので、それらを含めて今後も注目していきたいと思う。

横川　可奈子（言語文化研究科 M1）

****

教育現場におけるCALLシステムの利用は、非常に画期的であると思います。

私はこれまで語学の授業を中心にCALLシステムを利用してきましたが、特に教員が随時学生の学習状況をチェックできる点や、黒板やホワイトボード上では困難であった指導が容易になる点、更には、学生自身が PC 等を利用し、自ら調べ、学び、その成果を発表できる技術を得られる点について、CALLシステム利用のメリットを強く感じます。

しかし、日本は世界に誇る IT 技術の持ち主でありながら、その技術を十分教育に活かせていないことも否めない事実です。日本の古き良き教育のあり方と、今後益々発展するであろう IT を駆使した革新的な教育のあり方が互いの利点を引き出す形で融合し、その利用が広く深く浸透することを切に願うものです。

竹田　佳代（言語文化研究科 M1）